観光立国の実現は地方（地域）から

静岡県

地方にもネット社会 業界はシフトチェンジを

勝又　洋支部長

どこから始まったかは定かでないが（恐らく航空業界が最初と思われる）、ネット社会が全ての地方にまん延してしまったことにより、われわれの業界はシフトを変えざるを得ないと考える。

その中で、昨年のバス料金の適正化は、ある面、混乱を招いているが、悪いものではない。その料金が提出される根拠をわれわれ自身が計算し、バス会社、旅行業界双方が利益を確保し、安全な運行を確保できればと前向きに思うのだが。

山梨県

歯を食いしばり 恐慌の時代を生きる

半田初幸支部長

今まさに恐慌の時代。旅行代金の単価は少しずつだが上がりつつも、お客の伸びは相変わらず。消費税が10％に上がり、景気回復も期待したが、それも先送り。今年も消費税が上がる前の出し渋りが予想され、恐慌からの脱出は見込めない。旅行代金の単価も底をつき、これ以上下げようがない。このタイミングでの先送りはかなりの痛手だ。私たち中小の会社は変わらず標準価格での販売を歯を食いしばりながら続けていくしかない。

茨城県

茨城のＰＲをして 景気回復に寄与したい

木村　進支部長

47番目の県として、観光の振興を図っているところだが、旅行市場の旅行スタイルの変化、多様化など観光を取り巻く環境は厳しさを増している。茨城空港をはじめ北関東自動車道や首都圏中央連絡自動車道などの広域交通ネットワークの整備が進んできており、本県に訪れる人、外へ旅行に行く人が多くなると期待をしている。県支部会員として他県に添乗をする際、茨城県のＰＲをして県内の景気回復に寄与したい。

北海道

インバウンドは晴れ アウトバウンドは苦戦

和田雅夫支部長

今年の北海道の会員の状況は、インバウンドを扱う会社は晴れ。アウトバウンドのみでの旅行取り扱いでは苦戦させられそう。景気の悪さと円安がそれぞれ影響大。支部の会員数は現状を維持しそうだが、入会、退会はシーソーのように動く。

顕著に見受けられるのは外国人を扱う第3種が増えていること。外国籍を持つ代表者もすでに、205社中、20社を超えるまでになった。旅行会社離れを止める方法を見つけ出せ。

愛知県

訪日外人旅行増加が マイナス要因を補足

古田保廣支部長

消費増税による買い控え、円安ドル高、賃金格差拡大、自然災害の増大、日中・日韓の政治問題など観光業界にとってのマイナス要因がある中で、原油安、北陸新幹線開業、7年に一度の善光寺ご開帳、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンのハリーポッター効果、東京オリンピックに向けての取り組み、安倍政権の追加経済対策など前半は、それらの効果が持続するが、後半までは持続しない。訪日外人旅行の増加がマイナス要因を補足する。

新潟県

中小の落ち込み 一層、危惧される

渡邊司之支部長

地方ではアベノミクス効果を感じられない。増税による消費の低迷、円安による海外旅行の低迷、極めつけは貸切バス新運賃制度の実質上の値上げか！　年明けを迎え、われわれ中小の落ち込みが一層、危惧される。また、それらを跳ね返す明るい材料が見当たらない。本部、行政を挙げての対応を図ることが急務。北陸新幹線開業に伴い、支部では県の協力を得、ニューツーリズム観光セミナーを開催し、着地型旅行の推進、創造を図る。

栃木県

会員の共同企画で 生き残りを目指す

国谷一男支部長

支部会員は9割方が零細企業だ。今、個人客はインターネットで予約してしまう。大きな企業や団体は大手旅行会社に流れている。中小の企業は存在そのものが減った。われわれの店舗にはお客さまが来なくなっている。政府や県の観光事業も、われわれがほぼ100％関わりを持てない訪日インバウンドばかりに目が向いている。今後も厳しい状況は変わらない。生き残る道は、会員同士が力を合わせた共同企画・仕入・販売だ。

青森県

旅行は買い物の最後 先行きは不透明

折舘公彌支部長

日本経済は回復傾向にあると言われているが、旅行業協会としては実際に回復傾向に向かっているとは思えない。2014年を振り返ると4月からのバス料金の改定、また消費税増税など良いことはない。今年は、円安が加速し、海外への渡航は減少になると思われる。景気が悪くなれば、最初に削られるのが旅行だ。景気が良くなったとしても、旅行は買い物の中で最後の最後。それを考えると先行きは不透明感しか感じられない。

三重県

上半期の観光業界 円相場が左右する

上之郷惠一支部長

上半期の観光業界全体を左右するのは円相場の動向だ。昨秋の円安ドル高はわれわれ中小業者にも年末年始の海外旅行の受注落ち込みの影響を与えた。消費税率引き上げの先送りも8％時の予想以上の消費低迷を体験した今、販売不振に歯止めがかかる状況ではない。これといったイベントもなく期待薄だ。下半期は9月の5連休の受注いかんで弾みがつくかが鍵。全ては実質所得の増加、個人消費拡大を願うも諸状況を鑑みると厳しい。

長野県

旅行形態の変化で 団体旅行が減少

滝沢　博支部長

昨年当初、緩やかに回復の兆しが見えた県内の景気だが、消費税率の引上げ、バス料金の事実上値上げなどさまざまな要因から、地場の旅行業者には、景気の改善による恩恵はなかった。企画旅行の比率が低い地場の旅行業者は、旅行形態の変化に伴い、団体旅行の減少は避けがたい。

以上の状況が今年、急変するとは考えられず、限られた一部の業者には晴れる日もあるだろうが、全体としては、曇り時々薄日と予想する。

群馬県

運賃制度を見直し バス旅行の回復を

山口　剛支部長

今年の観光動向として、円安による訪日旅行の増加、北陸新幹線金沢開業、姫路城一般公開などにより個人旅行を中心に期待が持てる面もある。しかし、2014年春からの貸切バス新運賃制度が本格的に適用され、今まで日本人の旅行を支えてきたバスツアーが激減すると思われる。特にＡＮＴＡ会員の取り扱いが多く、今年の年間を通じ雨模様と予測した。国はバス運賃制度を見直し、バス旅行の回復に努めてもらいたい。

岩手県

台湾国際定期便化へ 官民一体で取り組み

高橋幸司支部長

上半期前半はオフ期、主に募集型企画旅行の成否の鍵を握るが、昨年に施行された貸切バス運賃料金の改定は、未だ消費者に周知されていないことから旅行代金の高騰したイメージにつながり、集客に大きく影響するものと予想されることから雨。後半から下半期に掛けては、北陸新幹線金沢開業や本県地元空港からの台湾国際定期便化に向けた官民一体での取り組みから波及する効果などに期待して小雨後曇り程度は期待したいものだ。

滋賀県

特別なイベントなく 旅行需要は冷え込む

中河　茂支部長

インバウンドは順調に伸びているようだが、われわれ会員のほとんどが地域密着型の国内・海外旅行の販売だ。極度な円安傾向にあり、また中国、韓国との政治的な冷え込みもあり、海外旅行は苦戦している。日本経済も安定しているとは言えず、景気も良くない。年々ネット販売が増す中、われわれ中小零細企業はますます厳しさを増す。貸切バス代も実質大幅な値上がりで、今年は特別なイベントもなく、旅行需要は冷え込みそうだ。

富山県

北陸新幹線の開業は 旅行需要喚起の起爆剤

早川祐一支部長

3月14日に県民の悲願であった北陸新幹線が開業。県全体の産業、県民のライフスタイルに大きな影響を及ぼし、われわれ旅行業者にとっても旅行需要喚起の起爆剤となる。旅行形態も大きく変化する。発地型旅行では、善光寺の御開帳や軽井沢、最大の目的地となる東京、北陸・東北新幹線と乗り継ぎ東北、伊豆、箱根と多彩なニーズを生み、多くの需要が見込まれる。魅力ある富山への着地型商品をより充実し、新たな市場を開拓したい。

埼玉県

団体旅行の敬遠化 中高年層にまで拡大

浅子和世支部長

会員を取り巻く状況は一段と厳しくなっており、団体旅行の敬遠化が若年層から中高年層へと広がりつつある。埼玉県内においても県南部と県北部とでは多少の変化があるものの同傾向にある。中高年層では任意団体の旅行が多かったが、都市部では老人会などの団体が解散するなど良い傾向ではない。募集型も年金や身体の不安などから減少しているとともにバス運賃・料金の改定に伴い、今年は大幅に落ち込む見通しであろう。

秋田県

増税先延ばしで 不景気感は少し軽減

高橋哲朗支部長

増税後の落ち込みが懸念されたが、堅調な動きで推移してきた。ただ、米価の予想外の下落が、今後の動向にどの程度の影響が出るのか現時点では予測不能だが、少なからず影響がある。しかし、増税先延ばしで不景気感は少し軽減される。上期は前年比で若干プラスになるが、下期は物価上昇に伴う実質所得の減少、急激な円安で海外旅行意欲が低下するものの、潜在的に需要があり国内旅行にシフト、ほぼ前年並みに推移すると思う。

京都府

増税後の消費低迷で 旅行業界は厳しい

上原龍男支部長

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いします。

上期は、円安、ビザの緩和策により訪日外国人客が増える傾向にあり、インバウンド事業者は潤うだろう。

消費税増税後の消費低迷により、旅行業界は厳しい状況になる。

特に国内旅行は、インターネット予約の普及によりかなりのダメージを引き続き受けることになる。海外旅行も円安の影響により苦戦する。

石川県

新幹線の金沢開業で 空前の観光ブーム

北　敏一支部長

日本全体の景気は12月の総選挙で自民党が圧勝し、安定した政治のもと緩やかに上昇する。石川県では3月14日に新幹線が金沢まで開業し、首都圏から多くの人がおいでになり、開業1年目は空前の観光ブームで沸き返り、すべての業種でビッグチャンスを迎える。石川県支部会員も当然、首都圏方面を中心に送客する仕事が増加し、業績は上昇すると思う。そのほか、地元の小松空港発のタイチャーター便も引き続き実施していきたい。

千葉県

国内旅行中心の会社 今まで以上に厳しい

藤木　均支部長

景気の不透明感から、企業、団体などの旅行離れが進み、また、宿泊施設などのネット予約の急増で個人旅行の取り扱いも大幅に減少している。今後の消費税の動向も気になるところで、不安材料は多い。

さらに貸切バスの運転者配置基準の見直しと新たな運賃、料金の改定が拍車となり、国内旅行中心に運営を行う旅行会社を取り巻く環境は、上半期、下半期ともに今まで以上に厳しい状況になると思う。

宮城県

旅行者の要望に 応えられる体制を

大久光昭支部長

上半期はこれまでのように、東日本大震災の被災地を巡る被災地ツアーが盛んに実施され、着地型旅行も盛況を呈し、また訪日外国人も増加傾向となる。仙台空港が民営化第1号となれば、県外への国内旅行、海外旅行が増加に転じると期待される。しかし、旅行業界にとって厳しい環境に変わりはなく、下半期以降も旅行需要が盛り上がるためには、旅行者のきめ細かな要望に応えられる旅行会社の体制を構築していかなければならない。

大阪府

観光の光を取り入れ 下半期は実りの予感

永野末光支部長

消費税引き上げ延期と強いリーダーシップにより昨年後半からのＧＤＰの落ち込みから上半期は小雨から曇りになり微増。安定した穏やかな上昇傾向となり、同時にミクロ経済への浸透を促し、観光景気を引き上げるとともにマクロ経済の上昇をも誘引する。それに呼応するかのように下半期は観光業界においても枝葉に観光という光を漏れなく取り入れて幹が骨太に育つよう養分が行き渡り多くを実らせる予感と要素が感じられる。

福井県

厳しさは続くが 北陸新幹線に期待

平田龍雄支部長

地元の景気は良くない。われわれの主要な取引先である一般団体の多くは業績がふるわず、福利厚生などの経費を削減し、団体旅行にも行かなくなった。円安、ドル高で個人の海外旅行も減少している。厳しい状況は今後も変わらない。

一方で明るい材料もある。北陸新幹線が3月に金沢駅まで開業することだ。今回、福井まではつながらないが、それでも観光面の効果はある。地元の旅行業界も盛り上がっている。

東京都

明るい材料なく 耐える一年に

駒井輝男支部長

観光業界の2015年の見通しを語るにはいささか難しいところがある。

基本的には14年の継続になると思われるが、新年度に向けて明るい材料が見当たらない。

観光庁は訪日外国人客2千万人を目指し必死のようだが、われわれＡＮＴＡ会員は国内旅行が主であることから、その必死度は伝わってこない。むしろ他人事のようにさえ感じられる。

15年も耐える一年になりそうだ。

山形県

米価の下落により 農業県は厳しい状態

安達成憲支部長

山形県の今年の状況は東日本大震災の影響が根強く残り、また対中国、韓国に対する感情の悪化により国内のみならず、身近な海外旅行も激減している。また、中央と地方の景気格差の拡大もますます感じられる。また米価の下落により、農業県としての山形は非常に厳しい状態だ。今後の戦略としては14年度から始めて、実績を上げている協会出資の事業会社による協業化で、官公庁や学校関係にも大手と対抗できる力を付けていきたい。

兵庫県

政情や自然災害に 大きく左右される

世良純一支部長

上半期は昨年に引き続き円安が続く限り、海外旅行は伸び悩むだろうと思われる。

今の政情ではなかなか難しいが、日韓関係が良くなれば、安価で行け交通の便もいい韓国は、旅行者にとって海外旅行をもっと身近に感じてもらえる、うってつけの観光先になるのではないかと思う。

下半期も観光業界の動向は、国内、海外とも政情や自然災害などに大きく左右されるのではないだろうか。

岐阜県

ネット、スマホなど駆使し 創造性を高めよう

神谷利夫支部長

景気は上半期、下半期に関係なく悪化傾向に転じる。円安と増税で物価が上昇し、消費は低迷、アベノミクスの「第三の矢」の成長戦略が効果を発揮するのかは疑問だ。われわれ中小企業は景気動向に関係なく、インターネットの普及が旅行会社に重大な影響を与え、旅行会社不要論まで飛び出す背景に社会的地位の低さがある。よって、インターネット、スマートフォン、フェイスブックなどを駆使、創造性の高いものを創らなければならない。

神奈川県

アベノミクスでの 景気回復に期待

坂入　満支部長

昨年の消費税引き上げの影響がまだまだ尾を引きそうだ。年間出国者数が伸び悩み、国内旅行も昨年実績を上回るか不安視される。アベノミクスの継続で景況感は良くなりつつあるので、早く日本経済全体に行き渡るよう祈るばかりだ。上半期は昨年同様の動きと思われるが、為替相場が急激に変動しなければ下半期に入りいくぶん景況感が良くなり上向くものと考える。動向分析というより大きな期待を込めた見通しである。

福島県

ＤＣは好材料だが しばらく苦戦が続く

小林次郎支部長

収入が落ち込んでいるため節約や生活防衛に追われ、旅行はまず我慢といったところだろう。今年は県内全域を対象にＪＲの大規模なＤＣキャンペーンが4～6月に予定されているので、県は全力を傾けて成功に向け頑張っている。大勢の方々に来ていただけるのは復旧、復興の大きな力になるが、われわれＡＮＴＡ会員の旅行業者は地域から外に旅行をしていただくのを生業としている。その本格的な回復までまだしばらく苦戦が続く。

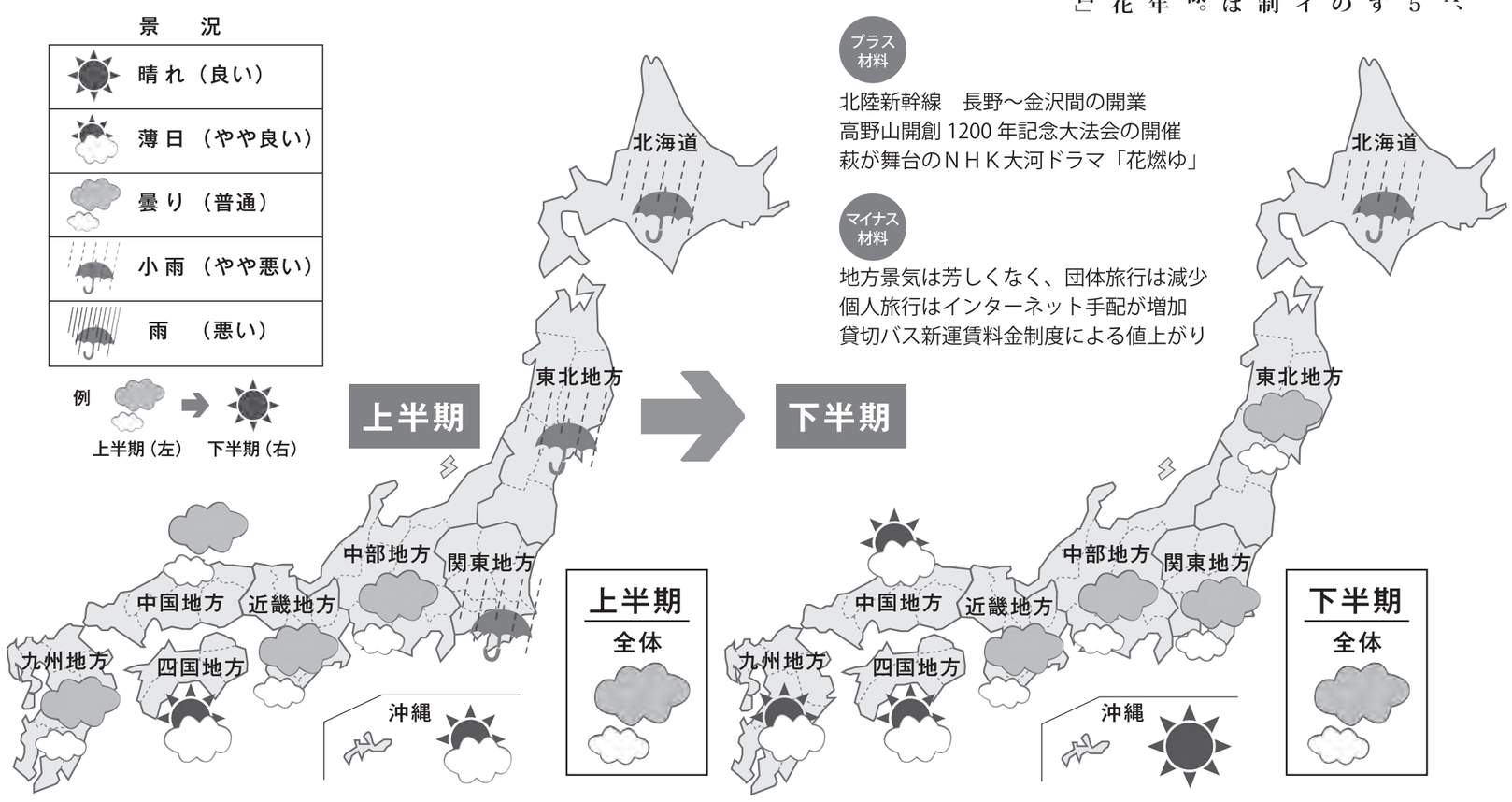
観光立国の実現は地方（地域）から

ANTA47支部長の予測

2015年の観光

環境厳しく北「小雨」 話題豊かな西「薄日」

観光経済新聞社は、全国旅行業協会（ANTA、二階俊博会長）の47都道府県支部長に「2015年の観光市場」を予測してもらった。天気で表すと日本全体は上半期も下半期も「曇り」。地方の景気は芳しくなく団体旅行は減少、個人旅行はインターネット手配に流れ、貸切バス新運賃料金制度の影響などもあり、中小の旅行会社にとっては厳しい環境が続く。そのため北では「小雨」模様。一方、北陸新幹線の開業、高野山開創1200年記念大法会、萩が舞台となるNHK大河ドラマ「花燃ゆ」などのイベントや話題がある西では「薄日」が差している。



佐賀県

村山輝昭支部長

団塊の世代 特に主婦層を狙え

最近の円安傾向で上半期は訪日外国人客で良好に推移していくものと考えた。国内旅行については、バス料金改定によりツアー代金が上がってきており、お客さまに浸透してきたものの、まだまだ。今後は景気の動向次第だ。下期については、衆議院選挙も予想通り与党が圧勝し、景気も上向くものと思われ、国内、海外旅行とも順調に伸びるとの予測だ。なお、今後とも団塊の世代、特に主婦層をターゲットにすべきだ。

長崎県

岩本公明支部長

キリスト教遺産やDC 明るい材料あり上向き

今年は世界農業遺産登録が5月に、またキリスト教関連遺産登録が、2016年に予想されることから、インバウンドを含めた県内への増客が見込まれ、景気が上向くことにより地場旅行業界に反映されることが期待される。また、16年秋にはJRデスティネーションキャンペーンが行われることも併せて、雰囲気的には明るい材料がある。以上、長崎県としては今年後半から観光市場はやや上向きになることが予想される。

熊本県

藉塚雄二支部長

県支部独自の「地旅」 造成、販売をさらに

過度の価格競争体質と、旅行会社を通さない旅行の増加、若年層の海外旅行離れやインターネットの普及や貸切バスの新運賃制度導入により、中小の旅行代理店は極めて厳しい状況だ。熊本県の調査では、宿泊、日帰り客数と外国人宿泊客数は年々、増加（平均2％）している。熊本県支部としても、「貸切バス新運賃制度の導入」に伴う課題はありつつも、熊本県の調査報告に基づき、県支部独自の「地旅」の造成、販売にさらに取り組む。

大分県

高橋光昭支部長

待望の東九州自動車道 観光面での活性化期待

待望の東九州自動車道（北九州～大分～宮崎）が今年3月末までに椎田南IC～豊前IC（7キロメートル）を除き開通の予定。大分～北九州が1時間45分（40分短縮）、大分～宮崎が2時間50分（80分短縮）、佐伯IC～延岡南IC（62キロメートル）は無料区間となる。大分を中心に北九州、延岡、日向、宮崎方面のアクセスが大幅に改善され、大分～宮崎間の高速路線バスも検討されており、交通状況の改善や観光面での活性化が期待されている。

宮崎県

松葉藤吉支部長

東九州自動車道の開通 観光にかなりの効果

日本全体の景気は上向く。しかし、円安が進み、国内旅行に比して、海外は燃油が下がったとしても好調に推移するとは思わない。旅行業界はネットの依存が高まり、ネットに依存しない旅行業者にとっては厳しい状況に変わりはない。宮崎県では、東九州道の大分蒲江～佐伯間が3月に開通し、延岡～大分～鳥栖～福岡が全線高速でつながる。県北～福岡は1時間短縮され約4時間で結ばれるので、観光にはかなりの効果が期待できる。

鹿児島県

大熊信久支部長

観光活性化フォーラム 開催などで「日本晴れ」を

新幹線効果が落ち着き、観光客や旅行者の多様化するニーズに、旅行業者はこれまでの慣例に捉われない自由な発想での商品造成や経営を求められている。本県では10月に第30回国民文化祭、また年度末には当支部が現地実行委員となる「第11回国内観光活性化フォーラム」の開催を控えているため、下期は県内各地で交流人口の増加と盛り上がりが見込まれる。

これらを機に、全会員の力で「日本晴れ」を引き寄せたい。

沖縄県

堤　朗支部長

尽きない観光の魅力 沖縄は今年も元気

沖縄観光は今年も元気がある。昨年は年間700万人近くの観光客が沖縄を訪れた。何と24カ月連続で10％の伸びを続けている。

原因はいろいろあるが、リピーター率が78％という高率の裏には、尽きない観光地としての魅力が満載だ。特に、昨年、沖縄でのリゾート挙式を挙げた組数が1万3500組もあり、観光収入に大きく寄与した。

しかし、沖縄が抱える基地問題も今後の動向が気になる。

香川県

西岡宏之支部長

高松～上海、台北増便 訪日客で観光需要増加

新年明けましておめでとうございます。

昨年は四国八十八ヶ所開創1200年の記念の年であり、県内外や海外からも巡拝客があり、各寺ではイベントが開催された。

今年は、高野山開創1200年の記念の年で、引き続き県内の巡拝客の高野山参り需要が見込まれる。また、香川県内では高松～上海および高松～台北各路線の増便により訪日外国人の増加による各観光地や宿泊の需要増が予想される。

愛媛県

大塚　周支部長

一次産業中心の愛媛 団体旅行は減少

海山に恵まれた愛媛県内の産業は柑橘類栽培、漁業、養殖業など一次産業が中心で、その多くは利益が出ておらず、団体旅行は減っている。学校関係も少子化で思わしくない。消費税が8％に上がったため個人旅行の動きも鈍い。好調なのは外国人旅行だが、その恩恵は大手のみで、中小旅行会社は受け入れにからんでいないのが実情だ。今年の観光業全体の景気としては、良くて昨年並み、悪ければ2％減ぐらいになると予想している。

高知県

山中盛世支部長

豊富な山海の食で 誘客に取り組む

緩やかな景気回復は続くと思うが、増税が先延ばしとなって、今後の消費動向がどうなるかだ。

高知県は自然を生かした豊富な山海の食を売りとして客の誘致に取り組む。国際情勢の安定化と国内の景気動向にもよるが、外国人観光客を中心に旅行需要は上向く。

大都市圏と地方の格差が広がり、高知県は全国的にも、過疎化と人口減少が急激に進んでいる。このような厳しい経営環境にあって、会員も懸命に頑張っている。

福岡県

森岡敏夫支部長

地の利を生かし 韓国、中国を売る

昨年、福岡県はNHKの大河ドラマ「黒田官兵衛」にあやかり、また、ハウステンボスなどのテーマパークのリニューアルにより景気も活気づいた。

今年は韓国と国交正常化50周年を迎え、全旅協各支部では交流ツアーの企画もあり、また、中国とのトップ会談により明るい展望も見えてきた。

この機に乗じ福岡からは地の利を生かし、上半期は薄曇りから、下半期は晴れという見通しを期待した。

岡山県

松田良治支部長

総社市の「鬼ノ城」 ブレークに期待

消費増税の昨年は旅行取扱客数の減少に歯止めが掛からず今年もその傾向は続く。企業など団体客の利用は依然低調だが、近隣諸外国や国内への個人旅行は増加傾向。高級志向のクルーズ旅行なども人気で2極化がますます進んだ。今年も大幅な利用増加は期待できないだろうが、対面による旅行サービスの提供や趣味の旅行など特色を出し選ばれる会社にならないといけない。着地型旅行では総社市の「鬼ノ城」のブレークに期待する。

広島県

花岡正雄支部長

広域観光ルート提案し 外国人観光客を誘致

政府の地方創生プランには外国人観光客の誘致もある。中国地方では、県境や地域ブロックの枠を超えた広域観光のルートを進めたい。例えば道後温泉、別府温泉と連携し、瀬戸内海の船旅を造成する。中国山地には上質のスキー場が多くあり、同時に神楽が盛んで、伝統文化への誘いができる。これらを組み合わせれば立派なツアーになる。各県支部長が協力すれば必ずや成功する。地方分権の時代は地方のわれわれが主役となるべきだ。

山口県

津野地裕二支部長

「花燃ゆ」の効果で 萩の知名度が上がる

1月4日から始まるNHK大河ドラマ「花燃ゆ」は、吉田松陰の妹が主役で、萩が物語の舞台。萩の知名度が上がり、観光客が増えると期待している。7、8月には「世界スカウトジャンボリー」が開催され、世界からボーイスカウトが集まる。そうしたお客さまに着地型旅行「地旅」を提案したい。消費税が8％に上がった影響も秋には薄れるだろう。心配材料は貸切バス運賃の値上げだが、得意とする地域密着の企画でカバーしたい。

徳島県

大谷　稔支部長

会員の知恵と協力で 時代変化に追い付け

零細企業が中心の地方は、大企業本位の業績短観とは状況が異なる。上半期は、地方格差が一段と進み、景気は厳しく、統一選挙による影響も避けられない。反動により下半期は多少上向きになる。支部会員の多数は零細企業であり、代表者の高齢化、事業所の閉鎖などの問題も抱えている。顧客の旅行志向、行政の観光事業の考え方との差も表面化し、時代の変化に追い付いていない。知恵を出し、協力体制を強化する運営を心掛ける。

奈良県

中川宜和支部長

本気でもっと熱く お客さまを元気に

新しい年を迎える今こそ「やる気」から「本気」で取り組む時。旅行企画も求められている企画などは頭の中では分かっていてもなかなか行動実践されない。できない理由よりもできる理由をまずは書き出し、目標達成までいくつもの途中の楽しみも作って少しでも我々プロがお客さまに何をしてあげるかをあと一歩前に踏み出し、本気で自分らしくもっと熱くを基本に「お客さまに元気を与えること」を目的とすることが求められている。

和歌山県

桃原哲生支部長

高野山開創 1200 年や 国体の効果に期待

和歌山県の今年の観光トピックスは、上半期は世界遺産の霊場高野山開創1200年記念大法会、下半期は紀の国わかやま国体と障害者スポーツ大会があり、観光も含めた経済効果が期待される。また、関西の玄関口である関西空港ではロサンゼルスとバンクーバーの北米2路線の復活やセブ島への新規就航とLCCの便数拡大などで訪日外国人の増加とともに、円安で高くはなっているが、関西からの海外旅行の増加も期待したい。

鳥取県

馬場　進支部長

ありのままの鳥取 観てもらうチャンス

特別な行事予定のない今年の鳥取県。ありのままを観ていただくチャンスかも。山陰海岸ジオパークはエリアを広げて世界再認定。八社巡りの干支羊神社は鳥取市内聖さん。砂の美術館のテーマはドイツ。地蔵峠、花見潟墓地も新鮮。食べ物ならイカ、モサエビ、カニ。逸ノ城が高校時代に食べたバカツ丼、砂場コーヒー、牛骨ラーメン、ジビエ料理もうまい。米子鬼太郎空港、鳥取砂丘コナン空港へどうぞ。ベタ踏み坂越えてウェルカニ。

島根県

小河英樹支部長

出雲大社や石見銀山 今年もブームは続く

島根県内の今年の観光動向は、一昨年の出雲大社大遷宮および宮家とのご成婚で引き続き、出雲大社のブームは衰えず、世界遺産である石見銀山の入場者数も増加するだろう。

また、今年のNHK大河ドラマ「花燃ゆ」は、吉田松陰の妹が主人公で、山口・萩市が舞台となっており、萩、津和野は大幅な観光客の増加が見込まれる。